

平成 30 年度授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

校長・准校長サイン	名前
-----------	----

学校名 府立かわち野高等学校	名前
----------------	----

1 学校教育目標（めざす生徒像）

「夢や希望をかなえる学校」「安全で安心な学校」「地域に根ざし信頼され愛される学校」

- 1) 多様な個性をもつ生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、「社会を生き抜く力」を身につけるための基になる「確かな学力」をはぐくむ。
- 2) 安全で安心な学びの場で、思いやりと感謝の気持ちを大切にし、互いに認め合い尊重しあう「豊かな心」をはぐくむ。
- 3) 厳しさの中にも、やさしさ・温かみのある丁寧な指導を通して、規範意識や自尊感情を高め、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力」をはぐくむ。

2 平成 30 年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

- ・めざす生徒像を教員間で共有する中で、現状の分析と課題点を発見し、意識化する。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業力向上をめざし、活動チームを立ち上げて推進することで教員間の意見交換を促し、研修の活性化を図る。

②テーマ設定理由

現在、本校は普通科総合選択制高校から普通科専門コース設置高校への移行期にあり、平成 31（2019）年度の入学生を迎えて完成年となる。普通科総合選択制時代は 6 つのエリアと豊富な選択科目が設置されており、少人数展開の講座も多く、それが大きな特色となっていた。しかし、普通科専門コース設置校への移行とともに、普通教室で 40 人が一斉授業で学ぶことが主になる一方、中学時代までに自己肯定感がはぐくまれていない生徒も多く、進学のために自ら高い目標を掲げてがんばる、という生徒が多数ではない。だからこそ、生徒の現状分析と課題発見を行い、学ぶ意欲を伸ばすための工夫や、魅力ある授業づくりにつなげるための授業改善が喫緊の課題である。

また、2022 年施行の新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」の理念は、まだ教員間で共有されているとは言えず、今後めざす学校像やはぐくみたい生徒の力を具体化し、教育活動につなげていくためには、教員の共通理解を深め、未来を描きながら語る場の創出が必要である。そのためにも、魅力的な校内研修を計画して参加率を高めるとともに、活性化を図りたいと考えた。

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- (ア) 各教員が「主体的で対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング＝以下、A.L. と記す）」の必要性を認識する。
- (イ) A.L. の授業実践から生徒の主体的な学びに向かう変化を見取る。

②具体的な取組み

- (ア) 各教員が「主体的で対話的な深い学び（A.L.）」の必要性を認識する。
 - ・ A.L. を推進するチームとして、「A.L. 授業研究会」を立ち上げ、活動をすすめる。その際、研究会で行う議論は基本的に参加型で行い、様々な方法で意見を出し合い、共有・検討する会議の進め方を研究会メンバーが学ぶ。
 - ・ A.L. の学習理念を理解し、各教員が A.L. の実践者となるための校内全体研修を実施する。
- (イ) A.L. の授業実践から生徒の主体的な学びに向かう変化を見取る。
 - ・ 生徒の実態を把握し、スモールステップを踏みながら生徒の学びへの意欲を高める授業計画を立てる。
 - ・ 生徒相互の学び合いの深まりを導く授業実践を行い、その授業を見学する中で生徒の活動や変容の様子から A.L. の意義を教員が学ぶ（研究授業）。
 - ・ 上記研究授業の研究協議において、生徒の活動からの気づきや生徒の変容の見取りなどを参加型で見える化しながら、教員相互の学びを深める。

③取組みの検証方法

- (ア) 各教員が「主体的で対話的な深い学び（A.L.）」の必要性を認識する。
 - ・ A.L. 授業研究会の記録と、1年間のふりかえりの回の記述内容
 - ・ 校内全体研修における教員アンケートの記述内容
- (イ) A.L. の授業実践から生徒の主体的な学びに向かう変化を見取る。
 - ・ 研究授業と研究協議における教員アンケート
 - ・ 生徒のふりかえりシートの記述の変化

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

- (ア) 各教員が「主体的で対話的な深い学び（A.L.）」の必要性を認識する

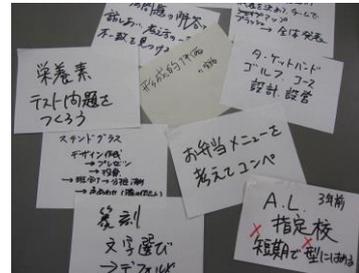
- ・ A.L. 授業研究会の活動内容のうち、参加型での進行の様子

第1回ミーティング 6月12日（火）

「A.L. とは何か？」という率直な疑問がメンバーから出されたことから、それぞれの教育実践の中から、「生徒の主体的な学びを促進し、より深く学ばせた例」を出し合う

ブレインストーミングを実施した。共有の後に意見交換する中で、同じ活動でも、A.L.を意識した課題提示の方法、問いかけの工夫などにより、生徒の活動が主体的で対話的なものになることが理解され、だからこそ、教員の意識改革と工夫が必要であると確認された。

(芸術) 自己評価・他者評価をしてまとめて返却する／ステンドグラスのデザイン作成・プレゼン・投票・分担・色あわせなど
 (体育) 前時で勉強したことを次の授業の最初で発表させる／ターゲットボードゴルフのコース設計、設営／水泳授業の自己評価と相互評価の差を認識／持久走の記録ノート活用など
 (理科) ヒレの動きから学ぶ生物の多様性 in 海遊館／計算問題の教え合い／形成的評価(ルーブリック)の実施
 (ビジネス教育) イメージマップを使ってキャッチコピー作りと発表／「家から学校までの道筋」をチームで発表
 (教員研修) 学校での課題解決(分掌再編)をプレゼンし、チームで解決策を考え、プレゼン／ペアで地図読図し、質問に対する答えを共同して文章化
 (数学) わからない生徒・わかっている生徒が相互に出向き、教えあう／隣の友達と教えあう／オリジナルノートづくりとその評価
 (家庭) コミュニケーションワーク／「地球の食卓」フォトランゲージ／「豊かさとは何か」ランキング／ロールプレイ／子どもの遊びをグループで出し合う／テスト問題を作ろう／ディベートのテーマ決め(フィッシュボーンを使って)
 (英語) 1つの単語の意味をできるだけ挙げさせ、そこから別の英単語に戻す／書き換え文をペアで確認しあう、ペアで考えて前で発表／わからないところだけメモを取るオリジナルノート



ブレインストーミングで出てきた「生徒の主体的な学びを促進し、より深く学ばせた例」

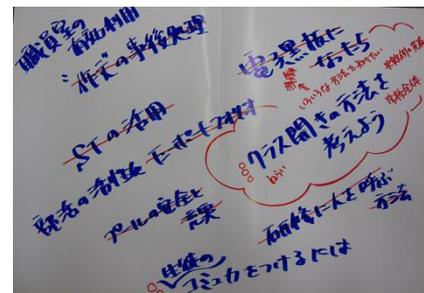
第2回ミーティング 7月5日(木)

10月5日に実施予定の校内全体研修会に向けて、使用するシンキングツールを使ったグループワークの試行を実施。シンキングツールの1つ、フィッシュボーン図を使って、「海のキャンプ」と「山のキャンプ」を各グループで企画した。投げかけるテーマを変えることで、各自が持っているアイデアや知識を出し合う活動への展開幅が大きいことを確認した。



第3回ミーティング 7月31日(火)

前回のミーティングで体験したフィッシュボーン図を校内全体研修会で使用するにあたり、どんなテーマで話し合うのがよいのか、ブレインストーミングで出し合った。なぜそのアイデアを出したのかを各自が説明する中で、本校の抱えている現在の課題(学力向上への取り組み改善、生徒のコミュニケーション力の育成など)も見えてきた。最終的に、生徒が新たな気持ちで学年を始める4月のホームルーム計画は改善の必要性が高く、他の課題解決への糸口にもつながるという意見から「クラス開きの方法を考えよう」に決定した。



第5回ミーティング 2月12日(火)

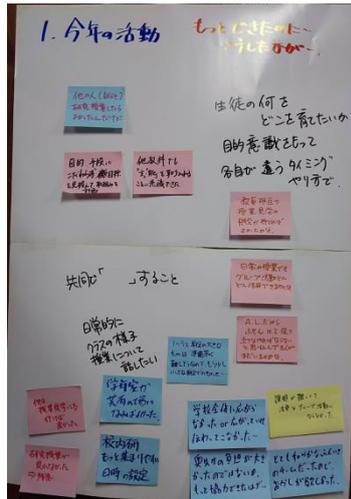
1年間の活動をふりかえり、次年度につなげるためのまとめの回をもった。まずは個人作業として付箋紙に以下の3点についてブレインストーミングし、貼り出した後、意見交換を行った。

- 1) 今年の活動をふりかえって、よかったこと、成果、変化
- 2) 今年の活動をふりかえって、改善が必要だったこと、やればよかったと思うこと
- 3) 来年度への提案

1)



2)



3)



- ・各教員が A.L. の実践者となるための校内全体研修の実施

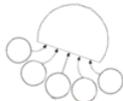
9月5日(水)に研修を実施した。研修の目的は以下の2つとした。

アクティブ・ラーニング? なにそれ、おいしいの?
 ~みんなの思いの引き出し方を学ぶ~

今回の職員研修では、アクティブ・ラーニングを行うことの良さを考え、シンキングツールを使った活動をみなさんで体験していくと思っています。

「生徒がする前に、まずは教師がやってみよう」という目的ですので、シンキングツールで楽しもう! ぐらいの感じで参加していただければと考えています。生徒が主体的に、自分の考えや思いを表現していくことができるようになって欲しいですね。そのために、「考え方の引き出し方」をたくさん学びましょう。

日時: 2018年9月5日(水) 14:00~16:00
 場所: 第2理科室
 内容: ・アクティブ・ラーニング研修(7月23日、布施高校)の報告
 ・シンキングツールの体験
 ・10月研究授業について


*『シンキングツール~考えることを教えたい~』黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕
http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf

1) なぜ新学習指導要領で「主体的対話的な深い学び」が重視されているのかを教員が理解するため、インプット(内化)とアウトプット(外化)の学びのプロセスを体験しながらその学習の理念を認識すること。

2) 生徒の考えを引き出すために幅広く活用できるシンキングツールを知り、教員自身が体験することで、A.L.の実践に応用する能力を身につけること。

(参加者: 25名)

<研修のお知らせチラシ>

プログラム:

1. なぜ今「主体的で対話的な深い学び」なのか

	<ul style="list-style-type: none"> •A.L.研修(7月 23 日、布施高校)の報告 •なぜ A.L.が必要なのか?を内化する。 (情報のインプット)
	<ul style="list-style-type: none"> •多様なメンバーが混在するグループに分かれる。 (A.L.授業研究会のメンバーは各グループのファシリテーターとして入る)
	<ul style="list-style-type: none"> •A.L.についてグループ内で外化する。 (わかったこと、疑問などの共有) •各自が実践しているA.L.授業の例を出し合う。

2. シンキングツール体験

<ul style="list-style-type: none"> •「A.L.での約束」確認(受容、傾聴、秘密と尊重、安心・安全な空間づくり) •「シンキングツール」の紹介 	
<ul style="list-style-type: none"> •シンキングツール体験①Xチャートを使って「クラス開きを考えよう」→発表 	
	<ul style="list-style-type: none"> •シンキングツール体験② フィッシュボーン図を使って「アイデアを具体化する」 →発表 •ふりかえり、まとめ •10月5日研究授業の案内

ふりかえりシートより抜粋

10名提出／25名参加

1. 今日の研修でよかったと思われることに○をつけ、コメントをお願いします。(複数回答)

- (2)アクティブ・ラーニング研修報告 (5)シンキングツールを知ったこと
 (6)シンキングツールを体験したこと (5)グループワークで話し合ったこと

- ・HR が中心となりました。教科の授業での作り方も知りたいです。
- ・クラス開きの良い例をたくさん知れてよかった。
- ・今日の魚 etc.のツールを授業でも取り入れてみたいと思います。
- ・たくさんの意見を聞くことができ、自分にとってプラスになることが多かったです。
- ・「A.L.」に対する壁がかなり低くなった。
- ・楽しかったです。

2. 物足らなかった、もっと知りたかった、やりたかったことがあれば、コメントをお願いします。

- ・他の班の意見を聞いたのち、“オチ”をどうつければよいか教えていただければと思います。(どうすれば効果的か)
- ・もっと早い時期(若いとき)に A.L.について A.L.したかった(役に立っただろうに…)

(イ)A.L.の授業実践から生徒の主体的な学びに向かう変化を見取る。

- ・生徒の実態を把握し、スモールステップを踏みながら生徒の学びへの意欲を高める授業計画を立てる。

数学科奥教諭が授業実践を担当し、2年2組の数学Ⅱにおいて、各定期考査前に A.L.授業を実施した。学びの定着をねらいに、最初はペアになっての教え合いから始まり、2回目以降は指定したグループ内で役割を決めながら相互の教え合いがより深まるよう計画した。

回・月日	学びの方法	学習内容
第1回(5月 16 日)	ペアワーク	試験対策プリントを解答し、教えあう
第2回(6月 27 日)	グループワーク (10 人×4 グループ)	各グループに問題を提示し、シンキングツールを活用して、解答、考え方を共有し、発表する
第3回(10 月 5 日)	グループワーク (5 人×8 グループ)	各グループに問題を提示し、シンキングツールを活用して、解答、考え方を共有し、発表する
第4回(11 月 30 日)	グループワーク	各グループに問題を提示し、解答、考え方を共有し、個別で他のグループのメンバーに教える

- ・上記授業計画のうち、第3回 10 月 5 日(金)を研究授業とし、生徒の活動や変容の様子から A.L.の意義を教員が学んだ。

研究授業「シンキングツールを活用した学びあいの授業」実施

< 事前準備 >

前時に5人ずつ8グループに分かれ、違う問題を与えられる。役割分担(説明役、聞き役)を決め、与えられた問題についてフィッシュボーンツールを使って、各自の知識やアイデアを出し合う。付箋の色と貼る

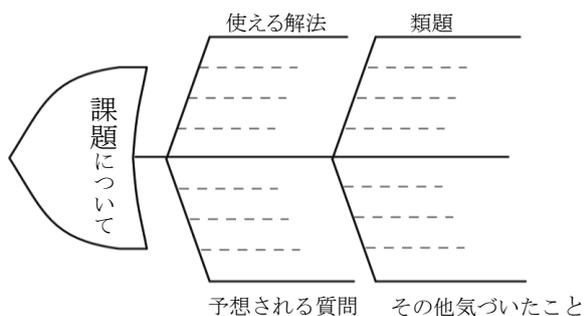
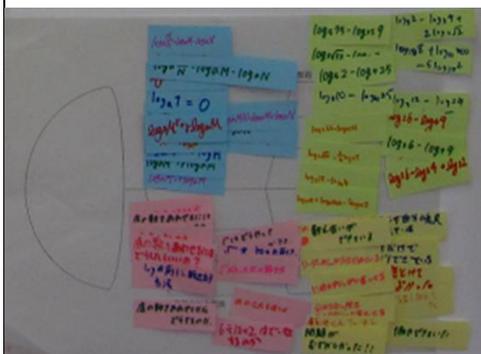
エリアによって以下のようにになっている。ペンの色は、生徒の個別の色とし、だれがどんな内容を書いたのかわかるようになっている。

青(左上) その問題を解くにあたって必要な公式や技術

赤(左下) わからないこと、質問が出るだろうと予測される点

緑(右上) どんな類題がふさわしいか

黄(右下) 気づいたことなんでも



<研究授業>

フィッシュボーン図に出されたアイデアを基に、他グループの人に説明するための模造紙を用意する。(外化＝学びのアウトプット)



説明役2人は、他グループから来た聞き役3人に解き方を説明する。わからないところは質問を受け、確認しながら理解してもらう。(説明役にとっては外化、聞き役にとっては内化のステップ)



聞き役は、自グループに戻り、説明役だった生徒に対して、他のグループで学んできた問題の解き方を教える。(聞き役にとっての外化、説明役にとっての内化)



理解したことを使って、発展問題を解く個人ワークを行い、学びを定着させる(内化)。

研究授業アンケートより抜粋

6名提出／12名参加

1. 研究授業に参加された方は、印象に残った点をいくつか教えてください。

- ・生徒が活発に動いていた。はじめ興味なさそうにしていた生徒も、他の生徒の解説に質問したり、意欲的に動いているように見えた。
- ・説明役も聞き役も、それしかないわけではなく、1度目の解説が終われば次は逆になるというところがすごくいいと思いました。
- ・生徒同士での教え合いができていたところが特に良いと思いました。
- ・生徒同士が教え合っている姿が印象的でした。
- ・前回のグループワークでの発表に比べて、よりスムーズに発表できており、成長が感じられた。
- ・グループリーダーの自覚を持ち、普段以上に真剣に取り組んでいる生徒もいました。

・研究授業実施日(10月5日)の放課後に、研究協議を参加型で行った。



研究授業で使用した問題プリント、生徒が作成したフィッシュボーン図、模造紙、生徒のふりかえりシートを掲示しておく。



授業者が、研究授業の様子を写真で提示しながら、流れをふりかえる。授業見学ができなかった人も研究協議に参加できるよう配慮する。



生徒の活動に注目し、時系列で学びの場面を追いながら、付箋紙に気づいた点を書き出し、模造紙に貼っていく。授業見学をしていない人は、出された意見に対して質問し、気づきを引き出す。
良かった点＝赤付箋紙／改善点＝青付箋紙、疑問・質問＝黄付箋紙



模造紙を囲んでシェアリングと意見交換。



グループ A

グループ B

2. 研究協議

1) 2グループに分かれて、時系列で振り返る（模造紙の付箋のまとめ）

グループA	良かった点(付箋:赤)	改善点(付箋:青)	疑問・質問(付箋:黄)
グループ内作業①	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの状況も把握できる生徒の存在はありがたい。 ・解く能力、ムードメーカーなど、できるところで活躍 ・分かった生徒から今日やる事が動き出し、周りが見つられていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、他者評価の説明の所で何のことが戸惑う生徒もいた。 ・黙って座っている生徒もいるが、参加はしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者と聴講者の分担が押し付け合いになっていないか。 ・分担(発表能力のある人など)を考えてのグループ分けですか？ ・両手を握って、右頬に当て、頬杖をついて静かにしている生徒 A(耐えていた?)
発表と聴講	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者が相手に伝えようと意識している。 ・質問する生徒も。 ・発言できる時間。生徒 A はイキイキして質問した。いつもよりいい言葉で。 ・質問に対してことばを変えて答えようとしていた。 ・内化、外化のやりとり 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がどこに移動するのかわからない生徒もいたが…しばらくして落ち着いた。 ・時間切れ 	
グループ内作業②	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことを話そうとするが 2分で言い切れない。質問されてまた考える。 ・説明する中で類題(例えば…)で話しをする生徒 		
シングルワーク		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価(低い)、他者評価(高い)、教師の評価、客観する力 ・生徒間の評価だと相手へ遠慮があるので客観性にかけてしまう可能性がある。 ・ほめる言葉のボキャブラリーを増やす。 ・掘り下げる質問をしていく。 ・自己肯定感を時間をかけて育てる。 	
まとめ、その他、全体			

A グループからのシェア

- ・グループ内で分担をして生徒全員が役割を果たしていたのがよかった。
- ・時間が短くて伝えきれなかった様子だが、限られた中でも一所懸命伝えようとしていた。
- ・客観性を持たせるために、授業担当者が評価をつけて返す、ということも必要だろう。
- ・寡黙な生徒がリーダーに任命された結果、覚悟を決めて本当に熱心に説明していた。(そういう生徒が複数名見られた)
- ・授業者は日頃の観察から、生徒同士の人間関係、得意なこと、苦手な面などを考えた上で、個々にチャレンジしてほしいこと、伸ばしたい視点をもってグループ組みをしている。数学の授業内容はもちろんだが、グループワークを通しての生徒の成長や“化学変化”が見えてとてもおもしろい。

グループB	良かった点(赤)	改善点(青)	疑問・質問(黄)
グループ 内作業①	・空間設定がゆったり ・人数が少なく、1人ずつの責任がはっきりしていた。 ・あきらめて寝ている人がいない →次の勉強につながる。	・グループ間の温度差	・発表者などの役割は決まっていたのか？
発表と聴 講	・生徒Aががんばっていた。小さい声だけど聞き手もよく聴いていた。 ・生徒Bが説明できていなかった部分を周りが助けていた。 ・説明者が「分かる？」と声かけをしていた。	・役割の班入れ替えが複雑？うっかりさんがいた。	
グループ 内作業②	手順を示した資料を作ったグループA1	「時間があれば説明できたのに」という言葉が聞こえた。	「わかったつもり」までいっていない生徒の外化をどうするか。
シングル ワーク			
まとめ、そ の他、全体	このようなグループワークをしていると、授業後も安心して聞ける、質問できる	授業の最後にシングルワークで難題を解いて内化の確認をする	WBマーカーで模造紙を書いていたのは？ →必要な文具・教具類は必要

B グループからのシェア

- ・A.L.で空間設定は大事。適度な広さがあることで、騒がしくなりすぎず、話し合いやプレゼンなどそれぞれの活動が有効にできていた。
- ・人数設定も大事。5人だったので、それぞれに責任があり、あきらめてしまう生徒もほとんどいなかった。
- ・必要な教材や文具がそろそろ、という環境整備も必要。
- ・グループ内発表は時間が少なく、生徒からも「短すぎる」という声が多かったが、授業者から「短時間で伝えることも大切。また、時間が長すぎると話せない生徒には苦痛だ」という説明があり、納得できた。
- ・グループ活動をしたことで、テスト前などに、安心して「わからない、教えて」と言い合える関係づくりができています。

2) 授業者よりコメント

- ・広い空間でも、生徒がちゃんと集中できていた。生徒自身が手ごたえを感じていたようだ。
- ・生徒の自己評価は低く、成績の面で高い評価の生徒ほど低くなる。他者評価は高い(低い評価はつけ

にくい、ということもある)

- ・授業のねらいに設定した点について研究協議でよかった点に挙げてもらい、一定の達成があったと感じている。
- ・指摘いただいた改善点について今後取り組んでいきたい。

3) 自己評価・他者評価に関する意見交換

- ・言語活動、表現活動を充実させたいので、ちゃんと自己も他者も客観的に評価できるようにしたい。
- ・上記のような点は、教科横断、学校全体で取り組んでいきたい。そのためには教員の意識を高めないといけない。
- ・ほめる言葉のボキャブラリーを増やす、改善すべき点をリフレーミングして、アサーティブに相手に伝える、5W1H など、定型化して使えるようトレーニングすることも必要なのではないか。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

第1回～4回の授業後に生徒に記入させたふりかえりシートの中から4名の生徒を抜粋して以下に示す。

2年2組 数学Ⅱ ペアワーク・グループワークの振り返り

回 (月日)	第1回(5月16日)	第2回(6月27日)	第3回(10月5日)	第4回(11月30日)
授業内容	ペアワーク 試験対策プリントを解答し、教えあう	グループワーク・ シンキングツール 各グループに問題を提示し、解答、考え方を共有し、発表する	グループワーク・ シンキングツール 各グループに問題を提示し、解答、考え方を共有し、発表する	グループワーク 各グループに問題を提示し、解答、考え方を共有し、個別で他のグループのメンバーに教える
生徒A	(相手の) 教え方がうまい。(自分は) うまく教えることができていなかったと思う。	自分の考えをうまく表現することができなかったが、友達がフォローしてくれたので、考えたことが伝わった。自分でうまく伝えられるようになりたい。	前回と同じ流れだったので、予習をきちんとしてきた。周りにもうまく伝えることができたと思う。	自分のところに聞きに来てくれる人がいたのでびっくりした。わかってもらえるように一所懸命教えた。
生徒B	お互いできていない問題があり、教えあうことができなかった。	事前に予習して問題を解いていた。グループ全員が理解できていたので、スムーズに発表準備ができた。	ほかのグループの発表を聞いて、自分のグループの人に説明するとき、時間が短くて、要点を伝えることが難しかった。	普段話したことのない友人に教えることができた。教えあうことで、お互いの理解度も確認できた。
生徒C	上手にコミュニケーションが取れなかった。	周りの人の説明を聞いていた。模造紙に解答を作る役割はきちんとできた。	ほかのグループの人に説明をした。うなずいてくれていたので嬉しかった。うまく伝えることはできなかった。	1対1なので落ち着いて説明することができた。わからないところはあるか聞いてくれたり、ポイントはここなど教えてくれた。
生徒D	普段と違う雰囲気楽しくできた。関係ないおしゃべりもしてしまったのは反省点。	リーダーがきちんとまとめてくれたので、自分の役割(模範解答作成)がうまくできた。グループのみんなもがんばっていた。	聞きに行ったとき、わからないところがあったので、質問した。きちんと丁寧に教えてくれたので、すごくしっかり準備しているなと思った。	自分の力で問題が解けたことが嬉しかった。シール全部ゲットしました。

●授業者による生徒の変化の見取り

- ・回数を重ねることでA.L.のマナーを守れるようになった。
- ・スモールティーチャーが多数出現し、生徒間の教え合いが定着した。
- ・宿題をきちんとやってくる生徒が増えた。
- ・「論理立て」＝「わかりやすい説明」のために熱心に言葉を選んで説明するようになった。
- ・自分に合ったわかりやすい教え方をする友人を発見して「教えてほしい」と自ら行動するようになった。

●別の教員による生徒の変化の見取り（英語）

- ・ペアワークの反応が少し機敏になった。
- ・解答などを前でするときに書きに来てくれる生徒が増えた。

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

2月12日（火）に行ったA.L.授業研究会のふりかえりでは、積極的で前向きなコメントが数多く出された。すでにホームルーム活動や授業にA.L.を取り入れて独自の展開を実践した教員もおり、教員自身が「おもしろい、やってみたい」と感じるA.L.実践のタネ蒔きになったのではないかと感じている。

また、研究会の活動をきっかけにして教員間のコミュニケーションが円滑になり、授業改善はもちろん、クラスづくりや教員間の新たな動きへの確実な一歩となっていることが確認された。以下、コメントを挙げる。

<今年の活動の良かったこと・成果・変化>

●校内全体研修会や研究授業を通じて

- ・生徒の目線になってグループワークができた。
- ・他教科の先生の取り組みや工夫を学んだ。
- ・少人数で前向きに話し合うことの面白さを教員も、生徒も実感することができた。
- ・若手教員が研修会で前に出てくれたこと。
- ・日々の授業がクラスの間関係・クラスづくりにつながっていくことを知れた。
- ・A.L.の敷居が低くなった。
- ・A.L.授業研究会が立ち上がり、活動することができた。
- ・A.L.授業研究会は、とても和やかな雰囲気ของทีมだった。
- ・A.L.の取り組みを共有できた。
- ・教員間で、授業について普段から話す場面ができた。
- ・勤務時間外のコミュニケーションの場でも話題の一つになったりした。

●A.L.の広まり

- ・1年生の進路HRにA.L.を取り入れることができた。
- ・教員がA.L.の観点を持つことができた。
- ・自分の2年目研修の中でA.L.を取り入れ、生徒がグループになって活動する時間を多く取った。
- ・シンキングツールを使った授業をしてみた。（倫理、バタフライチャート使用）

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

今年度は、方向性やビジョンはもちろん、課題設定もないままにパッケージ研修、カリキュラムマネジメント研修が始まり、4月当初は五里霧中であった。しかし、研究授業を担当することになった教員は大阪府では新任ながら、経験豊富なベテランであり、着任1ヶ月ほ

どで本校の生徒の状況を的確につかみ、コミュニケーション能力の育成や、学びあい関係の形成のために A.L. をテーマに研究授業をしたい、という明確なプランを持っておられた。私個人が考える生徒の課題や、授業改善の方向性とも一致し、かつ、シンキングツールという応用性の高いツールの提案があった。今年度はたいへん幸運な条件の重なりのもとで年間プランを描くことができた。来年度は、今年の実践と課題を確実につなげていきたいと思う。

また、研究授業には多くの参加者があったが、研究協議への参加が少なかったのは課題である。時間的制約があるのは事実だが、研究授業での気づき、学び（内化）をシェア（外化）することで身につく力になるはずで、工夫が必要である。

さらに、A.L. が学校に根つき、生徒の学びが変わっていくためには、どの教員も日常的に生徒の主体的な学びの場をつくる意識が必要である。今年度の研究テーマである「めざす生徒像を教員間で共有する」ことを中心に据えた研修会を設定し、その中で生徒につけたい力を見える化しながら、最も難しいことではあるが、教員の意識を変える働きかけが必要である。

<今年の活動で改善が必要だったこと、やればよかったと思うこと>

- ・時間が合わず、研究授業に参加できなかった。
- ・校内全体研修会は、もっと集まりやすい日時の設定が必要。
- ・もっと教員相互の授業見学の機会が持てればよかった。
- ・研究授業や授業見学をもっと多くの人が実施できたらよかった。
- ・日常の授業でもどんどん活用できるとよい。
- ・A.L. は付箋と模造紙が必要と思い込んでいる人がまだいる。
- ・生徒の何を育てたいのか、その共通の目的意識を教員がもつこと。その上で、各自が違うタイミング、違う方法で日常的に取り組むことが必要。
- ・特定の教員が、一部の生徒に対して特別に行うのではなく、どの生徒にとっても A.L. が日常の学び方になることが必要。
- ・教員が共同で「何か」に取り組むことの必要性。教材研究でも新たな HR 行事でも。
- ・それぞれの取り組みの共有の場が、日常の空間にたくさん用意されていることが学校全体の改善につながる。
- ・相談、提案、共有が気軽にできる雰囲気や空間、人間関係づくり。

（２）次年度に向けて

今年度のふりかえりでも多く出されていたが、「気軽に、何度も」行える授業見学のしくみを整え、研修会の回数を増やすなど、蒔かれた A.L. のタネの芽を育てていく必要がある。A.L. を取り入れた授業を中心に教員間の相互授業見学行い、アイデアを共有・交換しながら教員自身が楽しく取り組み、生徒の変化に嬉しくなれるような授業改善を図っていきたい。

また、今年度の校内研修を発展させ、めざす生徒像を教員間で共有する時間を設ける。その中で、具体的な教育活動の見直しを図り、新学習指導要領の実施に向けたカリキュラムについて検討することにつなげたい。

1年間のふりかえりでも、以下のような意欲的な提案が数多く出された。1つでも多くの

実現できるよう、取り組みを続けたい。

<来年度への提案>

- ・もっとたくさんの人の参加がほしい。
- ・学校全体での取り組みにしていく。
- ・初任者研修や10年目研修の対象者は必ず研究授業をしてもらおう。
- ・授業見学を気軽に、何回も行ける工夫を 部分的でも、クライマックスだけでも。
- ・気軽にトライできる場をつくる。
- ・A.L.の取り組み実践の時は授業見学してもらう仕組みをつくる。
- ・校内研修会の回数をもう少し増やす。
- ・授業だけでなく、HR活動やクラブ活動にも応用していきたい。
- ・かわち野という井の中の蛙にならぬようみんなで外の取り組みを知る機会をつくる。

平成 30 年度 校内研修年間実施報告

1 平成 30 年度の目標(テーマ・主題)

- ・めざす生徒像を教員間で共有する中で、現状の分析と課題点を発見し、意識化する。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業力向上をめざし、活動チームを立ち上げて推進することで教員間の意見交換を促し、研修の活性化を図る。

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		A. L. 授業研究チーム	教職員全体研修会 等
4	26(木)	担当教科内で検討	
5	7(月)	研究授業予定者への個別ヒアリング)	
	17(木)	研究授業予定者の授業見学1限	
6	12(火)	第1回ミーティング ・メンバー確認 ・今年度の目標や活動について ・校内研究年間計画の作成(ラフプラン) ・これまで実践したA. L. 共有	
	27(水)	研究授業4限2年2組	
7	5(木)	第2回ミーティング ・授業見学のふりかえり ・シンキングツールを使ったグループワークの試行 ・校内全体研修会の企画	
	31(火)	第3回ミーティング ・指導案の検討 ・校内全体研修会準備 ・研究協議の進め方	
8	31(金)	第4回ミーティング ・校内全体研修会準備	
9	5(水)		校内全体研修会
10	5(金)		研究授業「数学Ⅱ」2限2年2組(会議室) 15:40～研究協議 A. L. 教室

2	12(火)	第5回ミーティング ・ふりかえり ・「研究のまとめ」作成にむけて	
3	25(月)		「研究のまとめ」配布

平成 31 年度 校内研修年間計画

1 平成 31 年度の目標(テーマ・主題)

- ・前年度の校内研修を発展させ、めざす生徒像を教員間で共有する。その中で、具体的な教育活動の見直しを図り、新学習指導要領の実施に向けたカリキュラムについて検討する。
- ・「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を取り入れた授業を中心に教員間の相互授業見学行い、授業改善を図る。

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	1		職員会議で周知
	中旬	第1回ミーティング ・メンバー確認 ・校内研究年間計画の作成	
5	中旬	第2回ミーティング ・校内研究年間計画の作成 ・授業見学月間の計画	
6	中～ 下旬		授業見学週間
7	月上旬	第3回ミーティング ・公開授業・授業見学ふりかえり ・校内全体研修会プランニング	
8	後半	第4回ミーティング ・校内全体研修会準備 ・研究授業プランニング	
9	月上旬	第5回ミーティング ・校内全体研修会準備	
10	中旬		校内全体研修会 ・めざす生徒像から考えるかわち野の姿
11	中～ 下旬		研究授業／研究協議 授業見学週間
12	月上旬	第6回ミーティング ・ふりかえり ・「研究のまとめ」作成に向けて	
2	下旬	次年度に向けた準備	「研究のまとめ」配布

